

¹¹¹In-DOTA-c(RGDfK)による早期膵がんイメージングと RI 内用療法の可能性

2013/3/7 (木) 17:30～18:30

大阪大学医学部 講義棟 2 階 C 講堂

独立行政法人国立がん研究センター

吉本 光喜 先生

膵がんは極めて予後不良のがんであり、早期の段階から浸潤・転移が見られるため、早期発見が予後の改善、生存率の向上に重要です。細胞接着因子の一つである $\alpha_v\beta_3$ インテグリンは、膵がんを高発現していること、さらに、正常組織での発現が見られないことから、膵がん検出において優れた標的分子であると考えられます。我々は BOP 誘発ハムスター膵がんモデルを用いて、 $\alpha_v\beta_3$ インテグリンイメージング剤である ¹¹¹In-DOTA-c(RGDfK)による早期膵がんイメージングの可能性について検討してきました。本セミナーでは ¹¹¹In-DOTA-c(RGDfK)による早期膵がんイメージングと RI 内用療法への応用について紹介します。

略歴

- 1997 年 3 月 大阪薬科大学大学院薬学研究科修士課程 修了
- 2001 年 3 月 福井医科大学大学院医学系研究科博士課程 修了
- 2001 年 14 月 財団法人 先端医療振興財団 非常勤研究員
- 2002 年 13 月 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻医療科学領域 助教
- 2009 年 13 月 国立がんセンター研究所 がん予防基礎研究プロジェクト 主任研究官
- 2010 年 11 月 独立行政法人国立がん研究センター研究所 発がんシステム研究分野 主任研究員
- 2011 年 16 月 独立行政法人国立がん研究センター東病院臨床開発センター
機能診断開発分野（併任）

主 催: PET 分子イメージングセンター

連絡先: 大阪大学医学系研究科核医学講座 (06-6879-3461)

hatazawa@tracer.med.osaka-u.ac.jp

<http://www.tracer.med.osaka-u.ac.jp/index-jp.htm>